

事業コード	H18-建-継-31		区 分	国庫補助 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・海岸・防災 (tel) 018-860-2515
路線名等	横手川		担当課長名	佐々木 卓郎
箇所名	横手市本郷		担当者名	主幹(兼)班長 菅原 俊幸
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施策名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	06	施策目標(指標)名	河川整備率

1. 事業の概要

事業期間	S52 ~ H30 (42年)	総事業費	217.0億円	国庫補助率	1/2						
事業規模	延長L = 6,120m 計画高水流量Q = 1,100m ³ /s										
事業の立案に至る背景	横手川は河積が狭小で大きく湾曲しているため、頻繁に洪水が発生し、家屋浸水、県道冠水や農地冠水により、地元住民に多大な被害を与えている。特に平成13年8月1日豪雨では、当該区間の上流で甚大な被害が発生した事により、緊急対策特定区間の採択を受け、平成17年度に一連区間の完成に至っているところである。しかし、いまだその他区間については治水安全度の低い区間が存在し、引き続き事業の促進を図っていくものである。										
事業目的	昭和40年に発生した浸水被害の解消を図り、住民の生命と財産を守る。										
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等						
	事業費	21,700,000	21,700,000	0							
	経費内訳	工事費	8,729,000	8,729,000	0						
		用補費	11,405,000	11,405,000	0						
		その他	1,566,000	1,566,000	0						
	財源内訳	国庫補助	10,850,000	10,850,000	0						
		県債	9,765,000	9,765,000	0						
その他		0	0	0							
一般財源	1,085,000	1,085,000	0								
事業内容	築堤、護岸、河道掘削工	築堤、護岸、河道掘削工									
事業の進捗状況	<table border="0"> <tr> <td>全体計画</td> <td>217億円</td> </tr> <tr> <td>平成17年度末投資額</td> <td>174.45億円</td> </tr> <tr> <td>進捗率</td> <td>80.4%</td> </tr> </table>					全体計画	217億円	平成17年度末投資額	174.45億円	進捗率	80.4%
全体計画	217億円										
平成17年度末投資額	174.45億円										
進捗率	80.4%										
事業推進上の課題	特になし										
関連する計画等	上位計画である秋田21総合計画の中で河川の氾濫から人命や財産を守り、安全で安心な地域をつくる河川改修の推進に位置づけられている。										
情勢の変化及び長期継続の理由	横手市内を貫流していることから用地補償費に巨額の予算を必要とし、事業が長期化している。そのため、事業早期完成を地元が強く望んでおり、早期の完成が望ましい。										
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率									
	指標式	改修延長 / 要改修延長									
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無						
	目標値 a	44.2 %		データ等の出典	河川砂防課調べ						
	実績値 b	44.4 %									
達成率 b / a	100.5 %		把握の時期	平成18年 3 月							

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	平成17年度に緊急特別対策事業が完成しているが、住宅が密集する下流の改修には未着手であり、地域住民より早期の着手及び完成が強く望まれている。	28点
緊 急 性	現況河川の流下能力が低く、河道が激しく蛇行を繰り返しており、川幅も狭小であるため出水の度に増水氾濫が発生しているため、緊急性は高い。	10点
有 効 性	現在までに河川改修を実施した区間については、治水効果が発現しているため、その有効性は高いと言える。	20点
効 率 性	費用対効果 事業の費用対効果は33.48であり、1.0を越えており効率性は高い。 コスト縮減 残土の有効利用(他工区への流用)によるコスト縮減を図り、河川事業の促進をする。	13点
熟 度	地域の状況 横手川の氾濫により甚大な被害を経験した市民から、事業の早期完成を熱望する声は高い。 環境対策 河川の環境調査を行い、河畔樹木の保存を中心とした水辺環境の保存と再生を行っている。	13点
判 定	ランク () 地元からの要望は高く「必要性」「有効性」「効率性」等から事業の重要性は高く評価できる。また近年にも洪水被害が発生していることから継続実施し早期完成が望まれる。	84点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード(H18-建-継-31)
箇所名 (横手市本郷)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	想定氾濫区域内の状況 浸水戸数	50戸以上	10	10	
		49~10戸	7		
	10戸未満	3			
	浸水面積	60ha以上	10	10	
		59~10ha	7		
		10ha未満	3		
	重要な公共施設	3施設以上	5	5	
		2~1施設	3		
		無し	0		
	整備計画の策定 関係者、関係機関との調整		整備計画策定済み	5	
		協議中であるが特段問題ない	3		
		策定に着手していないが予定がある	1		
		予定無し	0		
計			30	28	
緊急性	災害発生危険度 改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	7	
		40~59%	7		
		60%以上	5		
	秋田県水防計画 重要水防地域	評定基準区分A	5	3	
		評定基準区分B	3		
計			15	10	
有効性	上位計画への貢献度 あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い	5	5	
		施策目標に間接的に貢献する	3		
		施策目標とは別のその他関連事業である	0		
	河川整備の有効性 安全度	災害防止等効果が発現する	7	7	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	
		親水性は現状と変わらない	0		
地域開発の状況	都市計画区域の存する地域	3	3		
	地域開発の計画がある	1			
計			20	20	
効率性	事業の投資効果 費用便益比(B/C)	2.0以上	5	5	
		1.0以上~2.0未満	3		
		1.0未満	0		
	事業実施コストの縮減 該当項目数	3項目以上	5	3	
		2項目	3		
		1項目	1		
		無し	0		
当初計画との比較 当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加	5	5		
	10%以上30%未満の増加	3			
	30%以上の増加	0			
計			15	13	
熟度	環境との調和への配慮状況 環境保全への配慮	十分に配慮されている	5	3	
		配慮が不十分で検討している	3		
		特に配慮はない	0		
	地元との合意形成の状況 地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1		
	事業の進捗状況 進捗率	計画より進捗している	10	5	
概ね進捗(90~100%未満)		5			
計画より遅れている(90%未満)		3			
計			20	13	
合計			100	84	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		